

4 中学校各教科の調査結果の概要及び今後の指導について

(1) 国語

ア 個々の問題の概要及びその通過率

—評価の観点—				
話・聞	：	話す・聞く能力		
書く	：	書く能力		
読む	：	読む能力		
言語	：	言語についての知識・理解・技能		

(◇：「活用」に関する問題)

学習指導要領の内容	問題番号	出題のねらい	活用	評価の観点	A設定通過率(%)	B通過率(%)	AとBの比較
A話すこと・聞くこと(1)2学年エ	1	一 ※調査問題の設問が不適切であったため、採点、集計の対象から除外しています。					
A話すこと・聞くこと(1)1学年イ		二 発表の仕方について、正しいものを指摘することができる。	◇	話・聞	60	46	↓
A話すこと・聞くこと(1)1学年エ		三 二人の発表から、共通して述べていることを説明することができる。	◇	話・聞	40	19	↓
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)1学年ウ(ア)(イ)2学年ウ(ア)(イ)	2	一 (1) 文脈の中で漢字〔従える〕を正しく読むことができる。		言語	80	85	↑
		(2) 文脈の中で漢字〔乗降〕を正しく読むことができる。		言語	70	78	↑
		(3) 文脈の中で漢字〔定義〕を正しく読むことができる。		言語	80	98	↑
	二 (1) 文脈の中で漢字〔幼なじみ〕を正しく書くことができる。		言語	60	84	↑	
	(2) 文脈の中で漢字〔系列〕を正しく書くことができる。		言語	60	44	↓	
	(3) 文脈の中で漢字〔専門〕を正しく書くことができる。		言語	70	70	—	
三 (1) 文脈の中で誤って使われている漢字を見付け、正しい漢字を指摘することができる。	◇	言語	60	35	↓		
(2) 文脈の中で誤って使われている漢字を見付け、正しい漢字を指摘することができる。	◇	言語	50	36	↓		
伝統的な言語文化に関する事項(1)1学年ア(ア)	3	一 文語のきまりに従って、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直すことができる。		言語	60	28	↓
C読むこと(1)1学年ウ		二 文章の展開に即して内容を的確に捉え、ふさわしい語を指摘することができる。	◇	読む	80	89	↑
C読むこと(1)1学年エ		三 文章の展開に即して内容を的確に捉え、表現の効果をまとめることができる。	◇	読む	40	48	↑
C読むこと(1)1学年イ	4	一 文脈から判断し、比喩的表現としてふさわしい語句を指摘することができる。	◇	読む	60	73	↑
C読むこと(1)1学年エ		二 段落の相互関係を正しく捉え、正しい接続語の組合せを指摘することができる。	◇	読む	60	66	↑
C読むこと(1)1学年ウ		三 文脈から登場人物の心情を捉え、同じ意味を表す表現を文章中から指摘することができる。	◇	読む	40	31	↓
小学校国語 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)1・2学年イ(カ)		四 文章中の示された述語に対する主語を指摘することができる。	◇	言語	70	57	↓
C読むこと(1)1学年エ		五 文脈から登場人物の心情を捉え、なぜそのような気持ちになったのかを、指定された語句を用いてまとめることができる。		読む	40	24	↓
C読むこと(1)1学年エ		六 音読の仕方について、なぜそのように読むのかの根拠を、文章中から指摘することができる。	◇	読む	50	26	↓
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)1学年イ(エ)	5	一 示された文章中の部分について、単語の単位で分けることができる。		言語	45	28	↓
C読むこと(1)1学年イ		二 文章の展開に即して内容を的確に捉え、示された一文が入る箇所を指摘することができる。	◇	読む	55	30	↓
C読むこと(1)1学年オ		三 文章の内容を的確に捉え、述べている部分の理由について、指定された語句を用いて要約することができる。	◇	読む	40	66	↑
C読むこと(1)1学年ア		四 文章の内容を的確に捉え、ふさわしい語句を文章中から指摘することができる。	◇	読む	40	28	↓
C読むこと(1)1学年エ		五 筆者の文章の述べ方について、適切なものを指摘することができる。		読む	60	43	↓
C読むこと(1)1学年イ		六 文章の展開を捉え、どの箇所段落に分けられるかを根拠を示して指摘することができる。	◇	読む	45	11	↓
B書くこと(1)2学年イ	6	必要な情報を資料から選択し、理由を説明する文章を条件に従って書くことができる。	◇	書く	40	28	↓

A設定通過率とB通過率を比較する際は、下記により判断する。

+5%より上の場合：「↑」 ±5%の範囲内：「—」 -5%より下の場合：「↓」

評価の観点	話・聞	書く	読む	言語
A設定通過率	50	40	51	64
B通過率	32	28	45	58

イ 個々の問題の教育事務所管内・地区別通過率

問題番号	問題の内容	設定 通過率	東 青 管 内				西 北 管 内			
			青森市		東郡		五所川原市	つがる市	西・北郡	
	一	※調査問題の設問が不適切であったため、採点、集計の対象から除外しています。								
1	二	発表の仕方の指摘	60	46	46	45	43	41	46	43
	三	共通点の説明	40	18	17	26	13	11	22	10
2	一	(1) [従(したが)える]の読み方	80	87	88	79	80	81	78	81
		(2) [乗降(じょうこう)]の読み方	70	78	79	72	74	70	75	77
		(3) [定義(ていぎ)]の読み方	80	98	98	96	98	99	99	98
	二	(1) [おきな(幼)なじみ]の書き方	60	86	86	81	81	85	72	82
		(2) [けいれつ(系列)]の書き方	60	52	52	51	39	35	41	42
		(3) [せんもん(専門)]の書き方	70	73	72	83	70	74	72	65
	三	(1) 誤字訂正(統→討)	60	42	42	39	23	17	32	23
		(2) 誤字訂正(交→公)	50	40	40	41	27	19	36	28
	3	一	[なうて]の現代仮名遣い	60	27	27	27	20	25	20
二		会話の空欄補充	80	90	90	87	88	90	90	85
三		表現の効果の説明	40	47	47	59	49	44	45	58
4	一	比喩的表現の指摘	60	74	74	76	72	72	70	72
	二	接続語の組合せの指摘	60	66	66	63	61	59	67	58
	三	語句の指摘	40	33	34	28	28	25	31	28
	四	主語の指摘	70	63	64	59	50	50	54	48
	五	心情の説明	40	25	24	43	21	17	17	28
	六	文の指摘	50	25	25	26	24	23	30	21
5	一	単語数の指摘	45	34	33	39	26	26	25	26
	二	挿入箇所の指摘	55	31	31	23	29	32	25	26
	三	理由の説明	40	63	62	73	61	59	57	67
	四	語句の指摘	40	31	30	40	24	24	25	25
	五	述べ方の指摘	60	42	42	42	40	41	39	40
	六	段落分けの指摘	45	11	12	5	8	9	9	8
6		情報を適切に用いた文章の記述	40	28	27	42	27	25	28	27
教 科 全 体			56	50	50	52	45	44	46	45

(単位：%)

中 南 管 内					上 北 管 内				下 北 管 内			三 八 管 内			県全体
弘前市	黒石市	平川市	中・南郡		十和田市	三沢市	上北郡	むつ市		下北郡	八戸市	三戸郡			
※調査問題の設問が不適切であったため、採点、集計の対象から除外しています。															
41	42	40	47	35	49	48	51	49	49	50	48	47	47	46	46
20	21	28	10	15	19	20	16	20	14	12	24	24	23	26	19
80	82	77	79	81	86	88	84	85	87	88	80	86	87	83	85
80	80	77	81	80	79	80	77	78	80	79	81	79	79	77	78
98	98	97	98	98	98	98	98	98	99	100	99	98	98	98	98
84	85	81	84	88	79	79	83	77	90	90	90	86	86	83	84
41	42	34	38	45	39	46	33	36	48	46	56	43	45	36	44
71	72	80	75	58	62	60	64	63	73	77	55	69	70	65	70
32	33	30	33	31	31	32	36	27	37	39	30	38	39	33	35
24	23	23	28	28	37	40	32	38	31	34	20	45	46	41	36
24	24	21	23	29	33	30	33	35	33	33	36	31	31	28	28
87	89	83	85	86	89	90	88	89	88	89	84	90	90	88	89
52	47	61	59	60	42	45	44	38	48	47	50	51	51	51	48
72	72	73	74	69	74	77	74	72	72	73	67	73	74	68	73
67	66	63	75	66	67	70	70	64	65	68	51	66	66	62	66
28	29	20	29	29	29	33	30	27	27	29	17	36	38	29	31
43	44	46	43	38	62	63	58	63	56	56	53	60	60	62	57
24	23	16	24	32	23	19	36	22	21	21	23	24	24	27	24
24	23	22	25	31	30	31	27	31	25	25	25	27	27	26	26
20	18	20	36	13	30	32	33	27	33	34	27	28	26	35	28
28	29	24	30	23	31	32	29	31	35	36	32	29	28	31	30
63	65	52	59	68	70	76	74	64	68	67	73	72	72	71	66
26	26	24	26	27	28	33	27	26	23	24	19	28	30	22	28
41	43	36	43	40	46	50	46	44	38	38	39	45	46	44	43
12	13	8	12	8	10	10	8	10	8	9	6	13	14	9	11
28	27	20	25	43	26	25	27	26	25	27	20	32	31	36	28
47	47	44	48	47	49	50	49	48	49	50	46	51	51	49	49

※通過率(%)は、「総正答数/総解答数」で算出した数値の小数第1位を四捨五入した整数値で表しています。

ウ 個々の問題の主な誤答例とその原因

問題番号	通過率(%)	主な誤答例(無答を含む) (カッコ内の数字は、抽出した解答全体に占める誤答の割合・%であり、調査全体の誤答の割合とは異なる)
① 三	19	必要な言葉が不足している(42.5)、質問の内容や意図を理解していない(20.5)、無答(8.5)、文法や語句を誤用している(3.0)
②	二(2)	無答(26.0)、「系」を誤っている(経、継、係等)(16.0)、「列」を誤っている(烈、統、例等)(6.0)、「系」「列」を誤っている(経烈等)(6.0)
	三(2)	無答(26.0)、正しい字を指摘していない(19.0)、誤字を指摘していない(14.5)
③ 一	28	なくて(42.0)、なって(7.0)、ないて(4.5)、無答(2.0)
④	五	根拠となる部分を的確に捉えていない(37.5)、無答(21.5)、質問の条件に従っていない(8.5)、質問の内容や意図を理解していない(5.0)
	六	質問の条件に合っていない(57.5)、無答(9.5)、表記を誤っている(1.5)
⑤	四	一つ誤答(24.0) [「空気」の誤答21.0、「脂」の誤答2.0、「羽根」の誤答1.0]、無答(5.0)、二つ誤答(4.5) [「空気」と「羽根」の誤答2.0、「空気」と「脂」の誤答2.0、「羽根」と「脂」の誤答0.5]、三つ誤答(0.5)
	六	二つ誤答(22.5) [I と II の誤答19.0、II と III の誤答2.5、I と III の誤答1.0]、一つ誤答(8.5) [I の誤答6.0、III の誤答1.5、II の誤答1.0]、三つ誤答(7.5)、無答(7.0)

- ①三では、誤答の原因として、正答に必要な言葉が不足している誤答が多かったことから、複数の情報を比べて、共通点や相違点を見付ける力が不足していることが考えられる。
- ②二(2)では、誤答の原因として、無答が多かったことから、「系列」の字を文や文章の中で適切に書く力が不足していることが考えられる。
- ②三(2)では、誤答の原因として、無答が多かったことから、「公私」の語について、語の意味を理解したり、話や文章の中で語句を適切に使ったりする力が不足していることが考えられる。
- ③一では、誤答の原因として、語意を指摘した誤答が多かったことから、文語のきまりを理解し、教材に即して適切に読む力が不足していることが考えられる。
- ④五では、誤答の原因として、心情や行動の根拠となる部分を的確に捉えていない誤答が多かったことから、登場人物の行動や会話文などに着目して読み、心情を捉える力が不足していることが考えられる。
- ④六では、誤答の原因として、抜き出す範囲や単位など質問の条件に合わない誤答が多かったことから、質問の内容や意図を的確に理解する力や捉えた内容を条件に応じてまとめる力が不足していることが考えられる。
- ⑤四では、誤答の原因として、正答に必要な言葉を使っていない誤答が多かったことから、文章の内容を的確に捉え、必要な情報を選択する力が不足していることが考えられる。
- ⑤六では、誤答の原因として、意味段落に正しく分けられていない、あるいは、根拠となる正しい言葉が挙げられていない誤答が多かったことから、段落の前後の言葉を根拠にして意味段落に分ける力が不足していることが考えられる。

エ 今後の指導について

○課題の見られた問題 1三、4五、5四

○出題のねらい

1三は、話の中で重要と判断されるキーワードを書き留めたり、気付いたことを書き加えたりしながら聞き、聞き取った内容から共通点を見いだすことができるかを判断する問題である。出題の意図は、平成29年度の分析において、話の内容を他の情報・資料と比べて、考えをまとめることに課題が見られたため、話の中で重要と判断されるキーワードや、話を聞いて気付いたことを基に、聞き取った内容から共通点を見いだすことができるかを判断する問題とした。

4五は、登場人物の心情の変化に沿って文章の流れを捉え、なぜそのような展開になったのかを、指定された語句の文脈上の意味を根拠としながら、まとめることができるかを判断する問題である。出題の意図は、平成29年度の分析において、登場人物の行動の意味を、話の展開に即して読み取ることに課題が見られたため、登場人物の心情を踏まえて文章の流れを捉え、語句の文脈上の意味を根拠としながら、文章の展開をまとめることができるかを判断する問題とした。

5四は、文脈上の意味を手掛かりに、語句の文章中における役割について考え、更に具体的な・個別的な内容を捉えることができるかを判断する問題である。出題の意図は、平成29年度の分析において、必要な情報を探し出してまとめることに課題が見られたため、文章中の語句を示し、それが何を示しているか、必要な情報を抜き出すことができるかを判断する問題とした。

○分析結果と課題

1三では、分析の結果、「躍動感」を共通点として捉えることはできたものの、「躍動感」と対照をなす「画像（のよう）」「写真（のよう）」を、共通点として捉えられていない誤答が多かった。

原因として、複数の情報があるとき、それらを共通点や相違点に基づいて分類することができていなかったことが考えられる。

課題として、複数の情報を比べながら聞く力、複数の情報の共通点や相違点を見付け、分類する力が不足していることが考えられる。

4五では、分析の結果、心情や行動の根拠となる部分を的確に捉えていない誤答が多かった。

原因として、複数の登場人物に関する情景描写や言動を整理できていなかったことが考えられる。

課題として、作品全体を通して、登場人物の行動や会話文などに着目して読み、情景描写等と関連付けて、心情を捉える力が不足していることが考えられる。

5四では、分析の結果、誤った情報を抜き出している誤答が多かった。

原因として、文章中に示されている情報を、正しく読み取れていなかったことが考えられる。

課題として、文章を正確に読み取ること、提示された語句について必要な情報を探し、整理する力が不足していることが考えられる。

○学習指導に当たって

今後の指導に当たっては、各領域の内容を関連付けながら指導する中で、話の要点やキーワードが伝わるように話したり書いたりさせることや、要点やキーワードが何かを考えながら話を聞かせたり、文章の読み合わせをさせたりすることが大切である。

指導例

新聞のトップ記事の構造や内容を手掛かりに説明文を読ませる指導 ～単元名「新聞記事をヒントに説明文の内容をつかもう」～

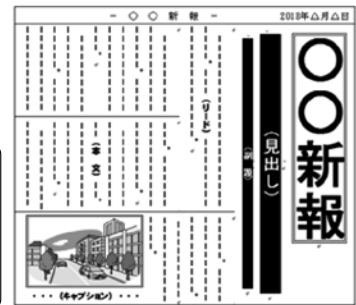
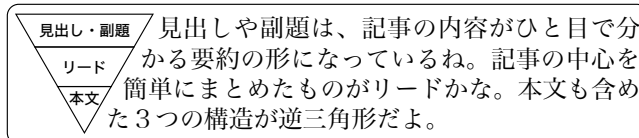
【指導の流れ】

1 新聞のトップ記事を読んで構造や内容について話し合わせ、その特徴を考えさせる。

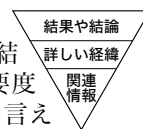
学習活動 学習に見通しをもち、新聞のトップ記事を読み、その特徴を考える。



これから読む説明文の学習に生かすために、新聞のトップ記事を読んで、その特徴を考えてみましょう。今日のゴールは、その説明文のリードを考えてみることです。



記事本文は、結果や結論を重要な情報として最初書いているわ。次が結果や結論に至る経緯、そして関連情報ね。重要度に注目すると、本文も逆三角形の構造と言えるわ。



ポイント

- ・新聞については、上記の「逆三角形」構造も含め、小学校でも学習しているので、その内容を想起させるようにする。
- ・「上記」の「逆三角形」構造がよく分かる記事を選んで読ませ、特徴を考えさせる。
- ・新聞を図書室に常備したり、印象に残った記事を紹介し合うグループトークなどを行ったりして、普段から新聞に対する興味・関心を高めさせるようにする。

2 「1」で考えた特徴（「逆三角形」構造）を踏まえながら説明文教材を読ませ、リードを作成させる。

学習活動① 「1」で学んだ内容を意識しながら説明文を読み、リードに必要な情報を取り出す。



（「見出しや題名」「リード」「記事本文」の「逆三角形」に注目して）説明文の題名を、新聞記事の「見出しや副題」と考えると、題名にある言葉や内容について説明した部分がリードに入らなきゃいけないな。説明の部分でははずせない言葉はどれだろう…。

（「結果や結論」「経緯」「関連情報」の「逆三角形」に注目して）「結果や結論」と「経緯」は、5W1Hで書かれていることが多いわね。この説明文も、5W1Hに注意して読んでみよう。新聞記事のリードは、5W1Hのうち、どれを書いているのかしら。



いつ=When
どこで=Where
だれが=Who
何を=What
なぜ=Why
どのように=How

学習活動② **学習活動①** で取り出した情報を基に、説明文のリードを作成する。

ポイント

- ・新聞記事の「逆三角形」構造が十分に生かせる説明文教材を選び、生徒に読ませる。
- ・「読むこと」の指導であるので、題名との関係から中心的な部分を見つけているか、文章全体における各部分の役割を捉えているかを、生徒に意識させる。
- ・生徒の実態から、「書くこと」に課題がある場合は、**学習活動②** に十分な時間を確保し、適宜指導を行いながらじっくり書かせるようにする。

3 リードを交流させ、その適否について互いに評価させる。

学習活動① 2 **学習活動②** で作成したリードを交流する。

学習活動② 単元全体の振り返りを行う。

ポイント

- ・交流では、題名との関係から中心的な部分を見つけているか、文章全体における各部分の役割を捉えているかを、生徒に意識させる。
- ・生徒の実態から、「話すこと・聞くこと」に課題がある場合は、交流を口頭で行わせ、互いのリードの共通点や相違点、教材文との整合からその適否を評価させる。
- ・振り返りでは、新聞記事の「逆三角形」構造に再度着目させ、中心的な部分を把握したり、文章内の各部分の役割を捉えたりする上でのポイントを考えさせる。

○課題の見られた問題 [4]五・六

○出題のねらい

[4]五は、登場人物の心情の変化に沿って文章の流れを捉え、なぜそのような展開になったのかを、指定された語句の文脈上の意味を根拠としながら、まとめることができるかを判断する問題である。出題の意図は、平成29年度の分析において、登場人物の行動の意味を、話の展開に即して読み取ることに課題が見られたため、登場人物の心情を踏まえて文章の流れを捉え、語句の文脈上の意味を根拠としながら、文章の展開をまとめることができるかを判断する問題とした。

[4]六は、音読の仕方について、なぜそのように読むのかの根拠を、複数の情報を整理したり、登場人物の描写や言動の意味などを捉えたりすることで、文章中の指定された範囲から指摘することができるかを判断する問題である。出題の意図は、平成29年度の分析において、問われていることそのものの意味や条件を踏まえて、考えをまとめることに課題が見られたため、複数の情報を整理したり、描写や言動の意味などを捉えたりすることができるかを判断する問題とした。

○分析結果と課題

[4]五では、分析の結果、心情や行動の根拠となる部分を的確に捉えていない誤答が多かった。原因として、複数の登場人物に関する情景描写や言動を整理できていなかったことが考えられる。

課題として、作品全体を通して、登場人物の行動や会話文などに着目して読み、情景描写等と関連付けて、心情を捉える力が不足していることが考えられる。

[4]六では、分析の結果、抜き出す範囲や単位など、問いの条件に合わせて考えていない誤答が多かった。

原因として、問いの内容や意図を的確に理解できていなかったことが考えられる。

課題として、問いの内容や意図を的確に理解する力や捉えた内容を条件に応じてまとめる力が不足していることが考えられる。

○学習指導に当たって

今後の指導に当たっては、様々な登場人物の視点に立って物語を読むことなどを通して、登場人物の心情と言動や情景描写が関連していることを理解させることが大切である。

指導例

視点を变えて、登場人物の言動や様子の描写に着目することで心情を捉えさせる指導
～単元名「視点を变えて物語を書き換えることで、登場人物の心情を捉えよう」～

【指導の流れ】『字のない葉書』（作：向田邦子）を例とした単元の流れ

1 あらすじや主要な登場人物に関しての人物像などは、事前に読み取らせ、共有させる。

2 学習内容の見通しをもたせながら、課題意識を高めさせる。

学習活動 末の妹が疎開から帰ってくる場面を、「父」の視点に立って書き換えることで、父の心情を捉えるという学習の見通しをもちながら、教材を読む。

この時間は、語り手とは違う登場人物の視点で物語を書き換えることで、心情を捉えるなど読みが深まることを確認するよ。語り手が誰なのか、物語の最後の部分を「父」の視点で書き換えるとしたらどうなるかを意識しながら読んでみよう。



文学作品の語り手

- ・一人称
 - ・三人称
- この作品は「私」の一人称

3 「父」の視点から場面の一部を書き換えさせ、交流させる。

学習活動① 指定された範囲を「父」の視点から書き換える。



「末の妹」が家に帰ってくる場面を、「父」の視点から書き換えてみよう。「はだして表へ飛び出した」ときや、「声を上げて泣いた」ときなどの、父の心の中の声を書くことが大切だよ。

はだして飛び出したんだから、何かにびっくりしたり、慌てていたりしたのかな。かぼちゃのことも、いつもは怒るのに、何も言わないのは、きっとわけがあるよね。



厳しい父が泣くんだから、きっとよっぽど悲しかったり、後悔したりしているんじゃないかな。その気持ちを表現するためには、「～やせた娘の肩を抱き」に「辛い思いをさせてごめんよ」を加えて、「声を出して泣いた」を「泣いてしまった」にしたらどうかな。

ポイント

- ・書き換える際は、設定や状況を勝手に変えないように注意させる。
- ・人物像などの既習事項や描写を根拠に書き換えさせる。
- ・他の物語などを教師が書き換えたものを例にして説明したり、ワークシートなどを工夫したりすることで、書き換えることの抵抗感を減らすようにする。
- ・物語の中でも、書き換えに適した場面を限定して活動させる。

学習活動② **学習活動①** で書き換えた文章を交流する。

4 書き換えた場面から分かる、「父」の「末の妹」に対する思いを考えさせ、発表させる。

学習活動① 条件に合わせて、「父」の「末の妹」に対する思いを考える。

自分で書き換えた文章や友達のことを参考にして、この場面の「父」の「末の妹」に対する思いをまとめよう。まとめるときは、次の条件に合わせてしよう。



私は、「～私は茶の間に座っていたが、『1秒でも早く娘の無事な顔が見たくて』、はだして飛び出した。」と書いたから、「末の妹に対する父の深い愛情」なんてどうかな。友達の『辛い思いをさせてごめんよ』を参考にすると「後悔」とかも考えられるわね。

まとめる条件(例)

- ・「父」「末の妹」の二語を必ず使うこと。
- ・「15字以内」で書くこと。

ポイント

父の思いをまとめる際には、自分で考えた文章と、「3 **学習活動②**」で交流した他の考えも参考にさせる。

学習活動② **学習活動①** で考えたものを発表し、全体で共有する。

5 単元全体の振り返りを行わせる。

ポイント

- ・視点を変えて物語を読むことで、感じたことや分かったことを振り返らせる。
- ・物語は作者の意図が、「情景描写」や「登場人物の言動」に込められていることを意識させる。
- ・他に『走れメロス』や『蜘蛛の糸』など三人称で書かれている作品は、「あなたがAなら、どう思うだろう」のように、登場人物の視点から感想や意見を書くなどの活動が考えられる。